

みんぱくを
離れるに
あたって

宗教から世界を見る、世界から宗教を見る

みんぱくでの三五年

なかまき ひろちか
民博名誉教授

みんぱくにつとめて三五年、思い出は尽き
ない。開館時には最年少の部類だったが、い
つのまにか最長老となり、ついに定年をむか
えることになった。本誌にも数多く寄稿した
が、「死のダイレクト・メール」(一九七八年七
月号)がいわばデビュー作であり、「茨木の弁
天さん——聖地の効用」(二〇一二年三月号)
がトリとなった。ハワイの葬儀ではじまり、地
元の聖地で締めくくった格好である。

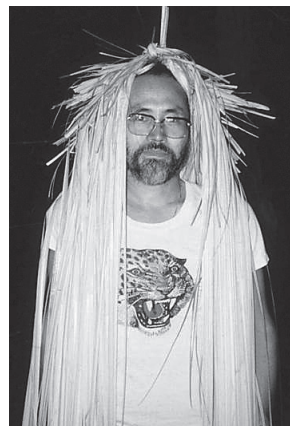
どの宗派・教団にも強くみられることである。
「祭りと芸能」では清楚にしてカラフルな世
界が日本の伝統文化にひそんでいたことが新
鮮な発見であった。白に象徴される清浄を好
むと同時に、赤に代表される派手さをそなえ
ていたからである。渡来の仏教はそこに「抹
香臭さ」を、キリスト教は「バタ臭さ」を加
味させた。そうして独特にブレンドされ、か
つ出自のちがいがわかる特異なブランドが形
成された。神は辛党で、仏は甘党だと分析する
フランスのグルメな文化人類学者もいる。感
覚から宗教にせまることも十分に可能なので
ある。

「祈る」の展示空間では「グローバル時代の諸
宗教」のコーナーをもうけ、カレンダーで宗教
文化の交流を表象しようとした。大西洋から
きたヨーロッパとアフリカの文化にくわえ、太
平洋をわたったアジアの宗教にも居場所をあ
たえる布陣である。日系宗教のカレンダーを
展示してわかったのは、日常の生活倫理とし
てアメリカス社会に溶け込もうとする姿勢が、

このように、在職中、わたしは宗教から世
界を見ようとつとめ、逆に世界から宗教をな
がめようとした。たとえば、宗教のたとえで
社会を分析し、組織のたとえで宗教を把握し
ようとした。会社による物故従業員の供養を
靖国の「英霊祭祀」になぞらえたり、国際展
開をはかる日系教団を多国籍企業との類比で
「多国籍宗教」と命名したりしたのである。
みんぱくの自由な雰囲気のおかげで研究と展



第1回「文明学」シンポジウム(1983)。前列左よりセップ・リンハルト、ヨーゼフ・クライナー、梅棹忠夫、ロバート・スミス、ハルミ・ベフ、後列左より石毛直道、横山俊夫、筆者、守屋毅の諸氏



シャーマンの衣装を試着(1994)。ブラジル・アマゾンのマディハ人の村にて

示にたずさわることができたのは、僥倖以
外のなにもでもなかった。研究としては海
外に進出した日本宗教を追いかけ、一九七
年からハワイ、カリフォルニア、ブラジルで
調査に従事した。博士論文「日本宗教と日系
宗教の研究——日本、アメリカ、ブラジル」
(二九八六)の大半はみんぱく勤務が可能にし
てくれたものである。

ブラジルではさらに北東部の民衆文化、ア
マゾンの幻覚宗教、先住民のシャーマニズムな
ど非日系の文化にも研究領域を拡大した。た
だし、アマゾン研究に関しては、一九九三
年からの三年間の科研費調査にもかかわらず、ま
とまった研究成果を刊行できなかった。忸怩たる
思いである。

他方、おなじ一九九三年から開始された「経
営人類学」の共同研究は七期を数え、五つの
科研費プロジェクトを組織し、一〇冊以上の
書籍を世に送り出した。その大半を刊行して
くれた東方出版の今東成人社長から「五〇冊
は出さないと学派はできませんよ」と言われ
たことが励みとなっている。前途遼遠である。
切手やコインに対抗してカレンダーの収集を
はじめたのも同時期であった。前二者が国家
による国民文化を表象するとすれば、後者は
国民文化はもとより宗教文化、企業文化、大
衆文化、民族文化、民俗文化など多様な文化
を内包している。カレンダーから世界を見るこ
とは研究の視野を広げることにつながっている。
わたしはカレンダー文化の研究を考古学・考

現学にならって「考暦学」と名づけ、みんぱ
くの標本資料とすべく収集に精を出した。
博物館と学校をむすぶ博学連携の取り組み
も忘れられない。日本国際理解教育学会とみ
んぱくが共催する夏の博学連携教員研修ワー
クショップは大阪府の初任者研修の場とし
ても活用されるようになった。教育といえ
ば、みんぱくを基盤とする総合研究大学院大学に
もふかくコミットした。博士論文を書くのは
学生であり、わたしは産婆役に徹した。そし
て多くの出産に立ち会った。

みんぱくは研究と展示、それに大学院教育
という三本の柱をもち、そのいずれにも濃密
にかかわれたことは、わが人生にとつて最大
のしあわせであった。



研究室の風景(1999)。オックスフォード大学ロジャー・グッドマン教授と



上海万博を調査中の「車椅子の人類学者」(2010)。左は曹建南上海師範大学副教授、右は張繼焦中国社会科学院教授

中牧弘允(なかまき ひろちか)
東京大学大学院人文科学研究科博士課程修了。
文学博士。日本学術振興会奨励研究員を経て、
1977年4月より民博へ着任。総合研究大学院
大学文化科学研究科兼任教授、先端民族学研
究部長を歴任。専門は宗教人類学、経営人類学、プ
ラジル研究。おもな著書に『カレンダーから世界
を見る』(白水社)、『会社のカミ・ホトケ——経
営と宗教の人類学』(講談社)、編著書に『グロー
バル化するアジア系宗教——経営とマーケティング』
(東方出版)、『学校と博物館でつくる国際理
解教育』(明石書店)、『価値を創る都市へ——文
化戦略と創造都市』(NTT出版)など。